

令和4年度 学校運営等に関する評価書	
学校名	和歌山市立川永小学校
作成日	令和5年3月10日

1 教育目標

豊かな心と学ぶ意欲をもち、主体的にたくましく生きる子供を育てる

2 学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・県学習到達度調査で基本問題の正答率が県平均を上回る。 ・毎日の勉強が分かる(児童90%台)	・学校が楽しいと感じる(児童90%以上) ・いじめの解消率(100%) ・いじめアンケート、情報モラル授業を数回実施する	・朝ごはんを食べた(100%) ・児童のアンケートで「体育の授業が楽しい・休憩時間は元気に外遊びができた」と答える子を増やす	・学校の教育活動や子供の様子がよく伝わった(保護者85%以上) ・学期に1回以上地域の人材を活用する
意見重点目標に対する	○分かる授業の実践の成果が出ていると思う。ぜひ続けてほしい。○学力の向上には基礎をしっかりと定着させることが大切。目標として最適である。○基礎基本の確かな定着は、将来の学力向上のため、とても大切なことであり、評価できる。○子供主体の授業は、自ら学ぶ意欲を養うことができると思う。○家庭学習を定着させ、読書の楽しさを知ること、これからの学びの力になると思う。○読書は想像力を豊かにし、読解力やポキャブラリーを高めることができ、大変重要である。	○「豊かな心の育成」は人間として最も大切であり、目標として評価できる。○道徳・人権教育は豊かな心を育成し、幼少期にはとても大切である。○いじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む姿勢は、子供たちの心に安心感を与える。○リーダーを中心としたチーム学校づくりを通して、社会の中で生きる知恵や力を養うことができる。	○「健やかな体の育成」は、学習、人間形成、社会生活等にとって大切である。○健やかな体作りは、全ての土台であり、最も大切な課題の一つである。体力向上の取組をより工夫してもらいたい。○基本的生活習慣の確立は幼少期にとっても大切。各家庭にもより啓発できると一層よい。○安全教育の充実、子供たちの大切な命を守るうえで、大切である。	○家庭・地域の連携は、「開かれた学校づくり」や子供の成長を皆で見守ることや地域の活性化につながる。○幼保小の接続・中学校区における学校間連携の推進は長期的視点で子供の成長に責任を持つことにつながり、素晴らしい。○地域の人材、資源の活用を通じ、地域の力を教育に活かすことができ、良いことである。
意見取組状況に対する	○学力の向上について、真摯に取り組んでいる。「学校が楽しい」と子供たちが感じることができるよう、取り組みを行っている。タブレットを活用した教育を積極的に行い、自ら進んで学習することに役立っている。○漢字検定では、子供同士や保護者も「今なん級!」「合格できた!」と関心が高く、意欲的である。○毎日の勉強がよく分からないと答えた子供が20%近くある。学年や個人によっても異なるが、何かフォローできないかと思う。○子供主体の授業づくりは子供が自分で考える学習となり、自主性を養うために重要である。○児童の実態として、「考えを書いたり」する力に弱さがあるという課題が数年にわたり指摘されているが、改善はどのようにされているか。	○いじめアンケートは大変工夫されており、これからも実施を願いたい。子供にとって学校が楽しいことにつながっていると思う。○児童アンケート「学校が楽しい」「友達と仲良くしている」「そうじを一生懸命している」「命の大切さや社会の決まりについて学んでいる」と肯定的な子が90%を超えている。素晴らしいことだ。教師の指導の成果だと思う。○いじめ防止には、アンテナを高くし、未然防止、早期発見に努めることがいじめの根絶につながっていく。○いじめに対する取り組みについて、どの学年も熱心に取り組んでいる。特にみんな仲良くすることなどに力を入れている。○いじめ防止に関する授業は定期的に行って意識を高めてもらいたい。	○次年度へ向けて、健康面、学校生活面、マスクの取り外しの時期など課題は多い。○「命の大切さや社会の決まりについて学んでいる」が93%と高率で取組が良いと思う。○子供たちは元気に外遊びをして生き生きと学校生活を送っている。	○感染症対策も施しながら、今まで以上に地域の人材を活用することを考えてみたかどうか。子供たちと地域の人たちの接点を増やしていったらよい。○学校及び学級だより、保健だより及びホームページ等を通して、学校の様子を定期的に発信しているので、児童や学校の様子がよく分かる。特にITを活用して啓発してもらえたらと思う。○子供たちは大変伸び伸びと育っている。ほのぼのとした子供たちの雰囲気が良い。
対取組の意見切さの検証結果に	○県学習到達度調査で正答率が県を上回る項目もあり、学力がついてきていると考える。○毎日の勉強が分かる指標90%に対して、児童は81%になっており、保護者アンケートでも「分かりやすい授業の工夫」の項目が肯定的評価が81%と同じである。何か相関関係があるのではないか。○長年フォローアップを続け、基礎基本の定着を図る取組を続けているので、成果が出ている。	○「学校が楽しい」(92.3%)「友達と仲良くしている」(95.4%)が高率なのは、いじめ防止の取組の成果だと考える。○登下校時やほかの時でも元気にあいさつできる子供たちが増えつつあると感じられる。○保護者アンケートで「学校に楽しく通っていない」とする保護者は、学級づくりに問題意識を持っていると思う。○「いじめなくそうデー」の取組について、学年に応じて、特別教材を使っている授業は素晴らしい。子供たちは学習を通してしっかりと自分のものとして受け止めていると思う。	○休み時間は肯定で遊ぶ子供が多く見られて、元気に動く姿が見られる。○「早寝・早起き・朝ごはん」(90.1%)を推奨し、生活リズムを整え、生活習慣をよくすることは健康の秘訣と考える。取り組みの成果が出ている。	○コロナ感染防止のため、学校と地域のつながりが少なくなり、寂しい一年であったが、学校だより、ホームページやメール等で、学校との情報交換ができていたと思う。オンライン授業の取入れもよかった。○学校がいじめのない学校・学級づくりに取り組んでいることを、もっと情報発信していく必要がある。
見改次善年方度法にに向けての意	○子供たちは興味のあることはとても深い知識を持っており、幼いうちに様々なことに興味関心を持ってどんどん吸収してもらいたい。○家庭では、ゲームやYouTubeばかり見ているので、読書の楽しさを伝える取組を増やしてほしい。○分かる授業の実践の中で、いかに伸びる子を育てるかを検討してほしい。	○いじめ防止の取組が効果を上げていると思われるので、今以上に早期発見、未然防止に努めてもらいたい。○保護者アンケート「学校はいじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる」に「分からない」と答えた割合が20%を超えている。学校の素晴らしい取組を保護者に示して理解を求めたら良いと思う。	○早寝・早起き・朝ごはん」を推奨する取り組みは、今以上に進めてもらいたい。○体力向上の取組を継続してほしい。	○近年、コロナ禍で青友会の奉仕作業も見送りになることが多く、改めて地域の人、子供、保護者、教師も含めて学校の美化に取り組んでみたらよいのではないか。○コロナ終息の兆しも見えるので、できるだけ早く地域とのつながりを平常通りに行ってもらい、学校行事に地域が積極的に参加できる機会を増やしてほしい。情報発信の機会をさらに増やしてほしい。

3. 其他のご意見

○コロナ禍のため、子供たちと接する機会は減っているが通学する子供の様子や教師と子供たちとのやり取り及び、校外学習の様子などから、のびのびと子供たちが成長していると感じる。○感染症5類になるに従い、以前のような環境を取り戻して、子供たちがさらに生き生きとした学校に戻ってほしいと願う。○リモートやオンラインの授業が増加している。パソコン学習をさらに工夫を加えて充実させてほしい。○評価書は、まず学校が原案作成し、それに委員の意見を反映させる方が良いのでは。○子供たちと接する教師が常に心にゆとりを持てるよう、知恵を出して時間確保したり、協力できることはないかと考える。○授業参観をすると、教師も授業に対してよく工夫しており、子供たちの反応も良いと感じる。